

## 進行性核上性麻痺に対する短期集中リハビリテーション効果の検討

研究分担者： 古和 久典

(独) 国立病院機構松江医療センター副院長

### 研究要旨

進行性核上性麻痺に対して、短期集中リハビリテーションの有用性を、前後の運動機能評価による改善効果を用いて検討した。Berg Balance Scale, 10m 歩行時間で統計学的に ( $P < 0.05$ ) 有意な改善が認められた。計 4 回の各入退院時においても、同様の傾向が認められた。

PSP に対して短期集中リハビリテーションによる改善効果、反復実施の有用性が示唆された。

### A. 研究目的

進行性核上性麻痺 (PSP) に対して、リハビリテーションの有用性に関する十分な検討はなされていない。LSVT® BIG は、動作の大きさに焦点を当てたプログラムで、パーキンソン病においてその有用性が報告されている。今回、PSP に対して同様のプログラムによる短期集中リハビリテーションを行ったので報告する。

### B. 研究方法

対象は、MDS-PSP criteria (2017 年) に基づいて臨床診断した PSP 症例で、2018 年 4 月以降に当科入院にてプログラムを実施した 11 例のうち、運動機能評価を前後ともにおこなった 8 例 (男女 4 例ずつ、平均 73.6 歳、平均入院期間 28.0 日) である。運動機能評価は、Berg Balance Scale (BBS), 10m 歩行時間, 10m 歩行歩数, Timed Up & Go Test (TUG) の 4 項目で、各項目について入院時と退院時で比較検討した。

計 4 回のプログラムをおこなった 4 例 (男 2 例, 女 2 例ずつ、平均 75.0 歳、平均入院期

間 22.5 日) において、反復効果の検討を行った。

### (倫理面への配慮)

本研究は通常診療の中で実施した評価をまとめたものであり、該当しない。

### C. 研究結果

初回入院時における平均 BBS (入院時, 退院時; 以下同様) は 39.8, 46.4, 平均 10m 歩行時間は 10.5 秒, 9.1 秒, 平均 10m 歩行歩数は 20.4 歩, 17.8 歩, 平均 TUG 12.0 秒, 10.9 秒で、BBS, 歩行時間で統計学的に ( $P < 0.05$ ) 有意な改善が認められた。計 4 回の各入退院時においても、同様の傾向が認められた。

### D. 考察

リハビリテーションの内容や反復実施の間隔, 評価方法の検討を踏まえて、さらなる症例の蓄積が必要である。

### E. 結論

PSP に対して短期集中リハビリテーションによる改善効果, 反復実施の有用性が示唆された.

#### **F. 健康危険情報**

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

#### **G. 研究発表 (2020/4/1～2023/3/31 発表)**

##### **1. 論文発表**

・古和久典(分担): 進行性核上性麻痺 (PSP) 診療ガイドライン 2020. 神経治療学 37(3): 435-493, 2020.

##### **2. 学会発表**

・古和久典, 進行性核上性麻痺に対する短期集中リハビリテーション効果の検討.  
(第 39 回日本神経治療学会学術集会, 津, 2021 年 10 月 28 日)

#### **H. 知的財産権の出願・登録状況**

(予定を含む.)

##### **1. 特許取得**

なし

##### **2. 実用新案登録**

なし

##### **3. その他**

なし